



春日井ロータリークラブ
2014～2015 年度 WEEKLY REPORT

クラブテーマ

ロータリアンのフェロシップで、 世界・地域に、何か良い事をしよう！

植物園 ニュートンのリンゴの木

会 長：加藤 久仁明 例 会 日：金曜日 12:30～13:30
副 会 長：蓮野 美廣 例 会 場：ホテルプラサ勝川
副 会 長：山田 治 事 務 局：春日井市鳥居松町5-45
幹 事：近藤 太門 T E L：(0568) 81-8498
会報委員会：長谷川 英輝 F A X：(0568) 82-0265

E-mail: ksgl-rc@gaea.ocn.ne.jp



本日のプログラム

- | | |
|--------------|----------------|
| 司会 | 和田 了司君 |
| ・点 鐘 | 加藤久仁明君 |
| ・国 歌 | 「君が代」 |
| ・ROTARY SONG | 「われら日本のリータチアン」 |
| ・ビジター紹介 | 加藤久仁明君 |
| ・食事・歓談 | |
| ・委員会報告 | |
| ・会長挨拶 | 加藤久仁明君 |
| ・卓 話 | 川瀬 治通君 梅村 守君 |
| ・幹事報告 | 近藤 太門君 |
| ・点 鐘 | 加藤久仁明君 |

2015年2月6日(金)2218回(2月第1例会)

さて本日は、都築正道先生をお迎えしての例会です。都築先生は、中部大学の名誉教授であり、今年度、桑名西 RC の会長エレクトです。中部大学の教授と言う事でよくメイキャップに当クラブにお越しに為られて居ましたので、ご存知の方も多と思います。本日の卓話、楽しみにしています。

幹事報告 幹事 近藤 太門君

都築正道さん、遠くよりお越頂き卓話をして下さりありがとうございます。又、加藤茂君の卓話を久しぶりに聞くことが出来ました。ありがとうございました。幹事報告ですが、今日のご連絡をしておく事は特にありません。

次週予告です。次週 2 月 6 日は第 8 回の理事役員会を 11 時 30 分より 5 階の若草にて、開催します。理事役員の皆様よろしくお願します。例会の卓話は新入会員の川瀬治通君と梅村守君です。お二人共よろしくお願します。

◎例会変更の案内

岩 倉 RC	2月24日(火) 2月22日(日) 地区大会の為 ウェスティンナゴヤキャッスル
瀬 戸 北 RC	2月24日(火) 2月26日(木) 夜間例会の為 木曾路
名古屋城北 RC	2月24日(火) 2月22日(日) 地区大会の為 ウェスティンナゴヤキャッスル
名古屋みなど RC	2月20日(金) 2月22日(日) 地区大会の為 ウェスティンナゴヤキャッスル
名古屋守山 RC	2月18日(水) 2月22日(日) 地区大会の為 ウェスティンナゴヤキャッスル

先週の記録

会長挨拶 会長 加藤久仁明君
2 週に渡り休ませて頂きすいませんでした。1 月 16 日は、交通安全功労者緑十字銀賞を頂に東京の日比谷公会堂に行っていました。この緑十字賞は金賞、銀賞、銅賞と三つの賞が有り、銅賞は各県警の本部長から授与されますが、金賞と銀賞は夫婦同伴で出席し、東京で警察庁長官より授与いたします。全国で約 700 人、来賓として、秋篠宮両殿下、内閣総理大臣、衆参両議長をお迎えしての表彰式でした。この式に向かう新幹線で、近藤ガバナーと同一車両で一緒になりました。ガバナーは 2 月の会員大会の講師にお会いに行くとの事でした。先週の月曜日に、カテーテルを入れての検査をしましたが、そのあと発作が起こり、長期入院になり、例会を休む事になってしまいました。今週からとりあえず社会復帰を致しましたが、完全ではありませんので皆様の、ご支援を仰ぐことになるとお思いますので宜しくお願いすると共に、この 2 週間のロータリーの友情に感謝いたします。

世界理解月間

例会予定	2月13日(金) 卓話 藪下 尚武君 卓話 朽本 正樹君	2月20日(金) 祝福 卓話 場々大刀雄君	2月27日(金) 卓話 峠 テル子	2月28日(土) 3月6日例会変更 少年自然の家 10時
------	------------------------------------	-----------------------------	----------------------	------------------------------------

ホームページ：<http://www.kasugai-rc.jp>

E-mail：ksgl-rc@gaea.ocn.ne.jp

あ	ま	2月23日(月)
RC		記念夜間例会の為

出席報告 委員長 伊藤 純君

会員 60名	欠席 24名	出席率 60%
先々週の修正出席	欠席 2名	出席率 96.7%

ニコボックス報告 委員長 古屋 義夫君

- 社会復帰しました ロータリーの友情に感謝いたします 加藤久仁明君
- 本日は卓話でお世話になります 加藤茂さんのおかげです 都筑 正道君
- 都筑先生よくお出でくださいました 加藤 茂君
- 学校の先輩、都筑先生をお迎えして 社本 太郎君
- 都筑会長エレクトの卓話を楽しみに 宅間 秀順君
- 都筑さんの卓話を楽しみにしています 近藤 太門君
- 伊丹での演奏会で台北ロータリークラブ合唱団の方々と交流してきました 川瀬 治通君
- 卓話を楽しみにしています。また加藤会長の社会復帰おめでとうございます 古屋 義夫君
- 卓話を楽しみにしています 伊藤 正之君
- 卓話を聞く喜びで 清水 勲君
- 加藤先生の卓話に期待して 貴田 永克君
- 卓話を聞く喜びで 松尾 隆徳君
- 卓話が楽しみです 山田 治君
- 卓話を聞く喜びで 和田 了司君
- インフルエンザ大流行 皆様お氣をつけて 青山 博徳君
- 今日もよろしく申し上げます 風岡 保広君 亀谷 鉦一君 屋嘉比良夫君
- 磯野 俊雄君 蓮野 美廣君 林 憲正君
- 北 健司君 志水ひろみ君 成瀬 浩康君
- 森田 誠君 山田 倫章君 速水 敬志君
- 日比 雄将君 河村 哲也君 岡嶋 良樹君
- 藪下 尚武君 朽本 正樹君 梅村 守君
- ご協力ありがとうございます。 古屋 義夫君

卓話 加藤 茂君

宅間プログラム委員長さん、先日は豆まきのお菓子ありがとうございました、こんなお駄賃をいただいでスピーチの請求書の義務を果たさない訳にはいきません。通りがかりの本屋に寄りましたら、平積みの場所に”スピーチの奥義”なる本がありました。3年ほど前に出た本で確か買ったはずですが探すのは面倒なのでまた買いました。帯に大きな字でテーマは2つ以内に絞れと記してありま

す。それで今日は、いつも”長生きの方法”をやブ医者の一としてご紹介することにしていますが、これはまたのお楽しみにします。アメリカ人のスピーチは、まず冒頭にジョークを放って聴衆の心を掴むことをやります。この本の要点をこれ以上やりますと丁度探偵小説のネタを始めにバラしてしまう事になりますのでこれ位にしておきます。というのが本日の私のスピーチの入り口ですが本日はテーマを1つだけにして本論としてお話しします。

この間まで中部大学で音楽学を講義してみえた都築先生をご紹介したいということです。先生は只今桑名西ロータリーの会長エレクトをしてみえます。私は以前より先生の深い知識の中の一部でもお聞きしたいと思って本日のスピーチをお願いしました所、ご多忙中にも関わらず引き受けて頂きました。本当は莫大な御講演料となるのですが、同じロータリアンではお支払しないというルールがあるのが本当に残念です。

まずロータリアンとして先生が出されている桑名西のロータリーのHPを見ますと実に1冊の本ができる程です。皆さんも一度ご覧になってください。実にプラトンの哲学から始まって、大いに興味をそそられます。

私は若いときからプラトニックラブはどうも下手だったことを告白します。国家論は眠くなるからせめて”晚餐”位と思ってもエロスとは何か聞かれると判らなくなってしまいます。

この辺から先生のご研究のワグナーに入っていくのかもしれない。学位論文はワグナーとの事です。先週1月25日は新国立劇場で”さまよえるオランダ人”を見ました。純粹な乙女の愛が男の魂や運命を救うことができる、というのですが少しくらい不純でもいいから僕も救ってほしいと思います。けれども難しいことは言わないで音を聞いているだけで僕は高揚します。ワグナーがこのオペラを作曲する前に”リエンツィ”というオペラがありますが、これはヒットラーが党大会の前に鳴らしたことで有名です、そのせいか殆ど世界でも演奏されなくCDも稀です。1つあることは伊藤正之の会員から教えられました。都築先生の前でこれ以上話をすると”釈迦に説法”になりますので、都築先生のご紹介という私の前座修行をここで終わって真打ち登場をお願いしたいと思います。

卓話 桑名西 RC 都築 正道君

講演のあいさつ 「みなさま、こんにちは。ただいまご紹介いただきました桑名西ロータリークラブの都築正道です。本日は、このような伝統とかがずかずの偉大な功績のある春日井RCで卓話にお招きいただきましたことは、私にとりまして大

変名誉なことであり感謝にたえません。ただ、浅学非才な身、みなさまのご期待に応えることが出来ますかどうか、忸怩たるものがあります。未熟の段、ロータリーの友情でお許しくさいますようお願いいたします…」というようなあいさつで、私たちは、卓話や講演は始めるのを常としています。ところが、外国では、特に欧州やアメリカでは、一般に日本とはまったく違った順序で始めます。まず、「みなさま、こんにちは」と会場の全員にあいさつしてはいけません。先ず、最初にあいさつすべきは、講師を紹介して下さった司会の方に対してです。なぜなら、この会の講師に当人を招いたのはおおむね司会をする担当者だからです。

司会者にお礼を 欧米の講演会では、まず、「テーマ」が大切です。いまももっとも切実な事柄について、もっとも権威のある人から情報を得たいというので講演会や卓話を設けます。日本は、講演会や卓話の日が決まっています、その日にあった頼みやすい人物を選びます。話のテーマは、その方任せになります。「テーマ」が中心の欧米の講演会では、そのテーマに詳しい専門家を選んで招聘します。講師を選んで頼むのは、企画者です。その企画者が司会を兼ねて、講師を招いた理由とその講師の業績を参加者に語るのです。ですから、講師は出てくると先ず、その司会者・企画者にお礼をいかなければなりません — 「数多くある専門家の中から私をお選びいただきありがとうございます。今日は、あなたのご期待の応えるよう、私が日頃研究しておりますその一番新しい研究成果をここでみなさんにはなさせていただきます」。本日は、司会の朽本さんと加藤茂さんに感謝いたします。

高貴な方にあいさつ 司会者にお礼を言った講師は、「みなさま、こんにちは」をまだ言ってはいけないのです。真っ先にごあいさつすべき方は、その会場にいるもっとも上位にいる高貴な方に対してです。本日は、会長の加藤久仁明さんと副会長の蓮野美廣さんに山田治さんに真っ先にごあいさついたします。また、お親しい方たちにもごあいさつしなければなりません。中部大学の副学長中島泉さん、東海高校の後輩で合唱団仲間の社本太郎さん、東海メールの川瀬治通さん、コンピュータでお世話になっている和田了司さんのみなさまにお会いできました。外国では、ナポリの「ジギスムント・タールベルク国際ピアノ・コンクール」の最終日の会場に、主催者のお一人であるナポリ王国の王女さまがおいでになっているときもあります。また、香港の演奏会の前夜祭に大使がおいでになります。オーストリアの大学では学長や理事長が私の講演を聞きにおいでになる予定もありました。実際にはおいでになりませんで

したが、そんなときには、むろん真っ先に王女さまや大使閣下にごあいさつをしなければなりません。そして、「お歴々のみなさま、紳士淑女のみなさま」へ移ります。もし、日本のように、最初に「私は……です」などと自分の名前を高貴な方より前に出すことは、失礼になります。日本では、反対に、自己紹介を最初にしなないと、「この人は、自分がTVや新聞で有名になったと思って、日本中のみんなが知っているのだから尊大にも自己紹介しないのだな」と誤解されてしまいます。

ジョークを言う そのあと、まだ本題に入ってはいけません。ここでジョークを言わなければなりません。わたしが本日、みなさまに用意してきたジョークは、「本日は全国的に……2015年1月30日金曜日です。みなさまは、お帰りの時に手帳をお出しになって日にちをお確かめになるでしょう。今日は1月30日金曜日だが、こんな酷い卓話を聞かされたので、きっと13日の金曜日に違いない」（笑い）。講演の初めの方でジョークを言うのは、聞いている方の緊張感をといてリラックスしていただくためです。身体も、耳も、脳も、ゆったりと気楽にしてお聞きいただくことで、難しい話も楽しく聞けるからです。落語家が、噺の前座に「まくら」で小さな小話を振るのもそのためです。小話で笑えば、お客はそのあとも、「面白そうだから話を聞いてやろう」とい気になります。ここまできたら、もうこちらのものです。

次年度のテーマ そして本題ですが、私が本日お話ししたいのは、次年度のRI会長“ラビ”ラビンドランさんが示したテーマ“*Be a Gift to the World!*”についてです。これを、日本では、「世界へのプレゼントになろう」と分かりやすく訳しました。原題の「ギフト」(Gift)を「プレゼント」としたのは、それなりの意味があるのでしょうか。「プレゼント」(贈り物)は、「ギフト」(贈呈品)よりも軽い意味があり、すでに日本語です。日本のロータリアンには、「プレゼント」の方が理解しやすく、大衆性と庶民性があります。それに、「プレゼント」という言葉には宗教性はありません。もっとも、「ギフト」には、「贈り物」という意味のほかに、「天賦の才能」という意味もあります。オー・ヘンリーの短編「賢者の贈り物」の原題は“*The Gift of the Magi*”です。ここで、「ギフト」がつかわれているのは「メイジャイ」(Magusの複数形)、すなわち、イエスの生誕に贈り物を持ってきた東方の三賢人が選んだ贈り物だからです。ラビンドランさんは、「ギフト」に、「授けられた才能」の意味を重ねながら、「信念、情熱、才能を捧げるだけでなく、皆さん自身を世界へのプレゼント(ギフト)として捧げて下さい」といっているのでしょうか。すなわち、次年度のテーマには、「全身全霊をかけて」

という強い意味があります。その意味で、「ギフト」を「プレゼント」と訳してしまうと、この「叡智ある贈り物」の意味の二重性がなくなってしまう。

二種類の贈り物でも、「プレゼント」(present)にも、たくさんの重要な意味が重なってあります。原意「目の前にある」から、名詞では「贈り物」「現在」、動詞では「口頭発表する」「出席している」となります。ディケンズの小説「クリスマス・キャロル」には、三人のクリスマスの幽霊が出てきます。「過去のクリスマスの幽霊」と「現在のクリスマスの幽霊」と「未来のクリスマスの幽霊」です。「現在のクリスマスの幽霊」のことを、ディケンズは、「クリスマス・プレゼント」と呼びます。この洒落が言いたくて、ディケンズはこの物語を書きました。いま、NHKテレビの「スーパー・プレゼンテーション」という専門家による「口頭発表」番組が大好評です。ロータリーでは、この叡智溢れる「プレゼン」のことを、古くから「卓話」と呼んで珍重しています。

私の本日の卓話が、そのようなものであることを願っています。

ご清聴、ありがとうございました。



卓話 都築 正道君



会長挨拶 加藤 久仁明君



卓話 加藤 茂君

